

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 6 回 中山間地域医療検討会		
事務局 (担当課)	医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時	令和 7 年 5 月 2 7 日 (火) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 3 0 分		
開催場所	ウェブ開催 及び 津久井総合事務所 3 階会議室		
出席者	委 員	1 5 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	1 0 人 (健康福祉局長、医療政策担当部長(兼)医療政策課長、津久井高齢・障害者相談課長、地域医療対策室長、在宅医療・介護連携支援センター所長 他 5 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 委員紹介 4 議題 (1) 基本方針に基づく取組について 5 情報共有 6 閉会		

議 事 の 要 旨

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員紹介

4 議題

(1) 基本方針に基づく取組について

事務局より資料に基づき、説明した。

【ロジックモデルのイメージについて】

(青山会長)

事務局において、基本方針の3つの柱を目指す姿とし、それを達成するために個別施策を分析し、ロジックモデルのイメージを作成したが、項目数が多いところもあるため、優先順位の付け方や指標の付け方、進め方など、ご意見をいただきたい。

(金子委員)

指標が空欄ではあるが、イメージとしてはこれでよいと思う。これをたたき台にして、出来ていない取り組みがあれば、それを達成するために、どうすればよいのかを検討し、達成度を確認できる形に落とし込む必要があると思う。

ただ、全てをこのロジックモデルで対応する必要はなく、指標を設定するものは取捨選択をしていくイメージである。

(土肥委員)

「かながわ救急情報センター #7119 の周知」について、「#7119」は安易に救急車の利用を呼び掛けている状況があり、かなり不適切な案内が目立っている。

市内の診療可能な医療機関を案内する「相模原救急医療情報センター」を周知することの方が重要であると考えます。

また、「乳がん、子宮がんの無料検診クーポン券送付」とあるが、がんで亡くなる人は、乳がんより大腸がんの方が4倍多い。無料クーポンを配布するなら、大腸がんや他の券種も配るべきと考えるので違和感がある。

最後に、このロジックモデルは中山間地域に限った施策なのか、全市的な施策なのか、整理してもらいたい。

(事務局)

ロジックモデルについては、全市的なものではなくて、あくまでも中山間地域を対象としたものである。また、がん検診の記載については、御意見を踏まえ、再検討させていただく。

(土肥委員)

「地域ケアサポート医の確保」について、去年も今年も全く運用されていない状況である。南区や中央区の人口の多い地区では、事例報告も耳にするが、緑区ではあまり実績がないので、確保以前に運用の見直しをした方がよいと考える。

(事務局)

地域ケアサポート医は全市で6件程度の利用実績であるが、津久井地域については、令和3年以降実績がないため、しっかり分析し、今後の地域サポート医のあり方などを検討し、数だけを増やすのではなく、必要な人に必要な医療・介護を届けるという視点で見直しをしていきたい。

(土肥委員)

内郷地区においては、民生委員や駐在所と連携を図っており、いざという時に出勤できるようにしている。困難な事例は多くあるはずだが、地域ケアサポート医の事業に上がってこないのが、なぜ活用されないかを分析し、有効活用してもらいたい。

(事務局)

地域の中に埋もれているケースもあると思うので、分析をさせていただく。

(石井委員)

「通院手段の維持・確保」が中山間地域の中で最も困難な事例と考える。病院に通えなければ医師が居ても仕方がない。訪問診療できる件数は限られている。

運転士不足による神奈川中央交通のバス路線の廃止や再編は、中山間地域の医療だけでなく、生活全てで本当に大きな課題になってくる。

医療の観点からすると、行政や地域包括ケア支援センターを中心に問題解決に向けて動いてもらわないと困る。

具体的には3台あるけんこう号を活用して、津久井、相模湖、藤野の3地区でそれぞれ1台ずつ活用し、医療機関を循環するルートで1日5回、週2回程度通院に使えるように検討してもらいたい。けんこう号は現状でも運用はしているが、効率的な運用は出来ていないと考える。

また、地域ケアサポート医について、精神障害の人の対応について、民生委員が対応に苦慮した事例が発生した時など相談したい。

(金子委員)

皆さんから出た具体的な内容を基にロジックモデルを考えたらよいと思う。交通課題などは、どうなったら効率よくなったと言えるのか、バスの運用がこういう状況になったら、そこはクリアなど目標を設定するようにしたらよいと思う。

どのような手順で進めていくのか、誰が責任をもって進めるのかを整理していただきたい。

(原田委員)

この表では項目が多いため、今日意見が出たような特に重要なものを別枠にして、審議に参加していない人が見てもわかりやすい表にした方がよいと感じた。

(青山会長)

項目が非常に多岐にわたっていることから、後日でも構わないので、事務局へメールや電話にて意見等いただきたい。

いただいた意見や特に重要な項目なども整理し、ロジックモデルの案を改めて、提示をさせていただく。

【医療と介護の橋渡し機能の具体的施策について】

(土肥委員)

医療と介護の連携はこれまでも日々行われてきており、個々の患者さんをめぐっては、病診連携、病病連携、介護との連携はされている認識である。

ただ、顕在化されていないケースもあると思う。民生委員や地域包括ケア推進課、高齢者支援センター、ケアマネージャーによくリサーチをする必要があると思う。

(事務局)

リサーチし、情報を集約する。

【中山間地域の交通の再編について】

(森田委員)

再編後の路線図を見ると、藤野、青根、青野原が孤立していると感じる。バス路線がないと住民は交通手段がなく生活全般において困ってしまう。

乗合タクシーも価格的にうまく活用できるのかという疑問が残る。その辺りの説明は、きちんとできるような体制なのか。

(事務局)

4月下旬から地域説明会を交通政策課が各地区で行っており、多くの質疑や様々な御意見をいただいている。

現在そういった御意見等を踏まえた中で、10月からの実証事業に向けてやり方の検討をしていると伺っている。

一方で運転士の確保については、予算があっても難しい。そういった中でも、できる施策を御提案しているところである。いただいた御意見については、交通政策課にも共有させていただく。

医療政策課としても、乗り合いタクシーだけではなく、様々な移動支援策と組み合わせながら、施策を検討していく。

御意見のあった、けんこう号の活用については、導入にあたり、「介護予防の事業に使用する」ということで補助金も活用しているため、課題はあるが、違う用途

や、未稼働の時間の活用など模索しながら検討していきたい。

(森田委員)

青根、青野原に全くバスがなくなるということも、医療離れが進むきっかけになってしまうことが危惧される、うまく考えていい案が出ればと思っている。

(関戸委員)

一番の問題は藤野地区のバス路線が全てなくなることである。医療はもちろん、生活全般に影響を与える。特に、牧野に住んでいる高校生が藤野の駅まで行けなくなり、高校に通えなくなってしまうことが一番大変だと思った。高齢者、若者、そこに住む全ての人が影響を受け、生活できなくなってしまう。

もう一点、お金の問題がある。1区間、同一間内、大人900円とのことだが、8つの運行区域を設定しているとなると、例えば2区間を跨いだ移動になると、往復3,600円となり、非常に負担が大きい。特に高齢者は、年金もそんなに多くないため、ここで生きてくこと自体ができなくなるので、本当にやめていただきたい。

(石橋委員)

藤野地域では、交通政策課主体の説明会や自主的に交通政策課を招いて説明会を開いている。市がお金を出さないから廃止となるのではなく、運転士がいなく物理的に続けられないことが、非常に問題になっていると感じている。

行政は本当に頑張っていると感じているのでお礼を言いたく発言した。

(布施委員)

現在の再編計画は、主要なところだけの話となっているが、相模湖でも山の上の方に住んでいる方は多くいるため、車の運転ができなくなると買い物や通院も難しい状況となる。この計画が実行できたら、藤野だけでなく、路線が通ってない、もっと細かい地域の交通手段のことも考えていただきたい。

(石井委員)

福祉有償運送について、名倉にある「NPO法人 さがみ こあら」が漏れている。

また、内郷地区にももう一者あったと思う。資料から漏れないように留意いただきたい。

(黒沢委員)

内郷地区の事業者はモノリスだと思う。参入している事業者が増えてきて、大変助かっている。

ケアマネージャーとして在宅で回る中で、交通事情で通院を断念するケースが現在の交通事情でも発生している。交通事情が原因で長期間病院に行かず、関わってすぐ入院となった事例もある。

交通の問題に予算をかけて取り組んでいかないと、どんどん医療費を圧迫していくと実感している。

今回の再編に関しては、運転士がいないことが原因であり、お金が原因ではないと思うが、現状の路線でもこのような状況があるため、今後、展開していくにあっても、今よりも手厚くというところを考えて取り組まないと、困っていく人がどんどん増えると感じている。力や知恵を注いでいただきたい。

(青山会長)

この問題については今後、事務局が市の所管部署と引き続き検討を行うと聞いている。一番大きな問題だと思っているため、今日いただいた非常に貴重な多くの意見を踏まえ、継続して議論をしていきたいと思う。

(森田副会長)

介護タクシーなど地域にどのような交通手段があるのかを知らない方がいる。どんな交通手段があるのかをまとめて、周知できるような手段についても検討してもらいたい。

(事務局)

この場でお答えができない部分が多いところではあるが、交通部門といただいた御意見を共有し、検討に活かしていきたいと思う。

交通手段をまとめて周知できるような手段がないかも確認し、改めて、共有させていただく。

御指摘いただいた福祉有償運送事業者一覧について、記載に漏れがあり大変失礼いたしました。

5. 情報共有

(関戸委員)

藤野総合事務所は、現在でも駐車場が狭いと感じるが日連との統合後、さらに利用が増えると思うが、何か手段は考えているか。

(事務局)

駐車場のスペースについては懸念するところと認識している。具体的にまだ言える状況ではないが、駐車場が不足して困らないように対応を検討していく。

(黒沢委員)

訪問型オンライン診療の実証事業についてだが、長期間の実施となるが、電波の問題に関しては増幅器的なものを装備するという話があったが、訪問する看護師等という標記となっているが、今回の実証においてもやはり、看護師となるのか。

(事務局)

電波の部分については、昨年の実証事業でかなり困難な状況もあったが、今回、衛星通信機器を準備し、対応する予定である。

看護師等というところについては、今年もやりながらの調整となるが、まずは看護師でスタートし、看護師でなくても対応できないかというところは状況を見つ

つ、医師と相談しながら試すことも考えている。

(黒沢委員)

看護師がそこに割かれることに対し、疑問を感じているので、今回の実証で看護師でなくても対応できるのか幅広い視野を持って検討いただきたい。

6. 閉会

中山間地域医療検討会 委員出欠席名簿

(五十音順)

氏 名	選 出 団 体 等	出 欠
あおやま 青山 なおよし 直 善	学識経験者 (北里大学医学部総合診療医学 主任教授)	出席
いしい 石井 ふゆき 冬 樹	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いしばし 石 橋 りょうち 了 知	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いわき 岩城 みの 美 野	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
かねこ 金子 あこ 亜 古	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
かねこ 金子 まこと 惇	学識経験者 (横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授)	出席
くろさわ 黒 沢 しんご 慎 五	さがみはら介護支援専門員の会	出席
ささき 佐々木 ゆかり 由 加里	公募委員	出席
せきど 関 戸 ひでこ ヒ デ 子	公募委員	出席
どい 土 肥 なおき 直 樹	相模原市立国民健康保険診療所	出席
にしやま 西 山 やすひこ 保 比 古	相模原市立診療所の指定管理者	出席
はらだ 原 田 たくみ 工	相模原市医師会	出席
ふせ 布 施 あつこ 厚 子	相模原市歯科医師会	出席
もりた 森 田 いくこ 育 子	相模原市薬剤師会	出席
もりた 森 田 りょう 亮	相模原市病院協会	出席